

実際に作るプロから学ぶ、 机上論で終わらない ショート動画内製化

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。



現場で使える知恵を、できるところから一緒に身につけていきましょう。

作り方ではなく、続け方まで決める。



学んだことを実務へつなげるため、**誰が・何を・いつまでに**進めるかを決めましょう。

動画が作れないのではなく、運営が設計されていない。



止まりやすい場所を見つけ、実務で動く仕組みに変えていきましょう。

内製化の目的を一文にする。

誰に、何を伝え、どんな行動につなげるか。

Before: 動画を作る



After: 事業の目的を達成するために
動画を運営する



机上の知識で終わらせず、自社で判断できる一文を作りましょう。

全部を社内で抱えない。



200社／3000本の制作知見

プロの型を必要なところから取り入れ、無理なく実装していきましょう。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。



知識だけでなく、判断の理由まで共有する。

実際の制作フローを学び、自社で再現できる型へ整えていきましょう。

全員を万能にせず、責任の空白をなくす。



目的責任者



企画担当



撮影担当



編集担当



確認担当



分析担当

一人が複数を兼ねても、役割名は分けておく。

役割ごとの実務を知り、一人に偏らないチームを作しましょう。

制作開始前の合意が、修正と停滞を減らす。



目的



対象



伝えること



尺と形式



確認者と期限



企画書は、作業指示ではなく**判断の合意書**。

制作前の合意を揃え、現場が迷わず動ける準備を整えましょう。

伝えたいことより、相手の判断を先に置く。



相手の状況



抱える迷い



知りたい答え



次の行動



一問一答



一本の動画に、一つの問いと一つの答え。

相手の場面から逆算し、実務で使える企画を一緒に磨きましょう。

センスを、再現できるチェック項目へ変える。



プロの感覚をチェック項目にし、誰でも品質を揃えられるようにしましょう。

高機能より、チームで繰り返せること。



迷わず使える



共有しやすい



引き継げる



費用が続く



選定基準：操作性／共同作業／書き出し／保守性

現場で使い続けられる道具を選び、日々の運用に馴染ませていきましょう。

判断は社内、変動と専門性は外部で補う。



社内の判断と外部の専門性を組み合わせ、学びが残る分担を作りましょう。

再生数ではなく、目的までの流れを見る。



数字から実務の改善点を見つけ、次の一本を良くしていきましょう。

小さく試し、作る範囲を広げる。



1～30日：
目的と型を決める



31～60日：
少数で制作する



61～90日：
振り返り、役割を広げる

期間はモデルです。自社の体制に合わせて調整します。

小さな実践で確かめながら、自社でできる範囲を広げていきましょう。

最初から完成形を目指さない。



小さな成功と学びを積み重ねる。

90日の実践を振り返り、自社に合う運営へ更新していきましょう。

明日から作るのは、動画ではなく運営の土台。

1

目的を一文にする



2

役割を分ける



3

最初の一本を決める



4

確認日を決める



プロから学んだことを現場へ移し、
できるところから一緒に進めていきましょう。

次の一步 →